

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	高付加価値医薬品を創出する複合基礎研究の展開と研究指向型薬学人材の輩出				
研究組織	代 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓
	研究協力者	所属・職名	薬学部・薬学研究院	氏名	全教員
		所属・職名		氏名	外部講師
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓

講演題目
高付加価値医薬品を創出する複合基礎研究の展開と研究指向型薬学人材の輩出
研究の目的、成果及び今後の展望
薬学が関与する領域は、基礎から応用まで幅広く、かつ、多様であり、そのアウトプットは常に患者、医療関係者といったユーザーを意識している。自然科学の進歩、社会環境の変化は留まることなく、常に大きなうねりを生じている。このような情勢の中で、最先端の科学を牽引する研究の推進、存在感を示す人材の育成が求められている。薬学部が担う役割は、「薬を扱う」薬剤師と「薬を創る」研究者を中心とした人材の輩出、ユーザーに対して価値ある医薬品を創出する基礎研究の推進、であることはいかなる状況下であっても不変である。創薬の対象は様々なモダリティーへと多様化しており、バイオロジーと疾患との関連を理解すること、モダリティーの形態の把握と定量的分析法を確立すること、モダリティーを患者に投与可能にする剤形に仕上げること、更には、その剤形の適正使用を提案・実施することにより、高いアドヒアランスを示す医薬品開発が達成される。つまりは、個々の基礎研究の進展に加え、これらの複合を効果的に、かつ、高いレベルで実行することが重要となる。また、AIによる調剤業務の効率化が謳われる中、AIでは達成が困難と考えられる患者に寄り添い、医師とのチームワークで薬物治療の推進に貢献する薬剤師を目指す学生が、薬学の複合基礎研究を展開する環境を体験すること、そしてそのプロセスに関する知見を修得することは意義深い。 そこで本研究では、本学薬学部の強みである分野横断型の研究・教育体制を最大限に活用し、バイオロジー、疾患、創薬（モノづくり）の有機的な連携に基き、「高付加価値医薬品の創出」を実現する複合基礎研究を展開することを目的とし、以下の取り組みを行った。「薬学講座」では、H I V薬害訴訟の実際を知ることで薬学の影の部分、また、「迷ったら患者の利益を優先する」患者ファーストの医薬品開発を実行することの大切さを知ることで、薬学人としての向上心と倫理観を学んだ。医療現場の従事者からの専門的な講演を聴講できる機会である「薬物療法研修会」を8回開催した。「薬学概論」では、学内の教員に加え、薬学出身で活躍中の外部講師による講義を通して、社会での役割の広さと活躍の場を学んだ。「早期体験学習」では、1年次の薬局、病院、研究室訪問に加え、2年次における製薬企業の訪問を行い、薬を扱う現場と薬を創る現場を体験した。8回開催された「月例薬学セミナー」では様々な研究領域の第一線で活躍する研究者による講演を通して、薬学研究の専門性を学ぶ機会を提供した。英語力の向上では、1-2年次における英語科目授業とTOEIC test受験を通して自己の英語力の分析の機会を与え、4年次以降では、科学英語の講義を担当するネイティブ教員を中心に、ICTを活用した教材の積極導入と活用により、研究発表の資料作成、プレゼン技術、質疑応答対応のトレーニングを行った。以上より、薬学部が提供した多様なプログラムを通して、学生は、様々な学びを体験した。これらの体験は、臨床と創薬を生命科学の切り口から理解し、患者の薬物治療に繋がる高付加価値医薬品の創出へと導く分野横断型の統合的・複合型薬学研究・教育に基づいた活動によりもたらされたものである。これらの取り組みにより、本学より先端的、独創的かつ実用的な薬学研究成果が発信され、更には薬学の様々な領域で活躍する優秀な人材を輩出する国内拠点としてより一層の充実が図られることを期待したい。